

## Q2 一人暮らし高齢者の支援方法について

### 高齢者支援を

**問** 今後高齢者の一人暮らしの方が年々増加し、買い物・通院等生活が大変である。当町においても現在一人暮らしの方が792人と聞いている。

**答** 全国の郵便局では、「見守りサービス」に取り組み、山梨県・長崎県が実施し、岐阜県では、郡上市が施策している。また、瑞浪市・神岡町では、「移動スパー」を実施している。これらを参考に一人暮らしの方の支援策に取り組んではどうかと考えるが町の考えを伺う。

### (市岡健康福祉課長)

**答** 議員ご指摘のとおり平成28年4月1日現在の在宅ひとり暮らし老人、いわゆる独居老人の人数は792人で、年々増加しています。高齢者のひとり暮らしは、日常生活の不便さはもとより心身の不安を感じられるケースが多いと思います。

ご質問にあります郵便局の「みまもりサービス」は本年6月に八百津町へも提案がございましたが、全国83自治体でサービスを提供中とのことで、県内では郡上市で訪問サービスを実施していると紹介されました。このサービスは、郵便局の営業社員が対象者宅を訪問するもので、



30分と60分コースがあり、それぞれ月額1,980円と2,480円で、訪問回数を1回増す毎にそれぞれ1,500円と2,000円を追加して支払うシステムです。このほか「みまもりでんわ」というものが、980円から1,180円の価格で設定されています。これにつきましては、費用負担が多いことや商業ベースのサービスであることから検討対象としませんでした。

町では現在、介護保険事業で地域のボランティアや元気な高齢者が新たな担い手となって、地域で支え合う仕組みを構築することを目指して「介護予防・日常生活支援総合事業」いわゆる総合事業の実施に向けて準備をしています。本年度は社会福祉協議会に生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を配置しました。また、今後、事業主体や生活支援の担い手など参加者を呼びかけ協議体を設置いたします。この事業では、ゴミ出しや草取り、外出の支援といった家の外での生活支援、配食や部屋掃除、洗濯や灯油の補充といった家の中の生活支援、困りごと相談や声掛けなどの見守り支援、移動スパーなどの買い物支援、店舗での買い物や薬の受け取りなどの代行支援などもサービスとして検討することとしています。特に生活

に直結する食品の買い物支援については、農協やコンビニなどの協力を得て移動スパーを走らせることも一案です。こういった事業を中心に、地域福祉計画の策定趣旨にもありますように、地域住民が助け合いの意識を高め、互いの顔が見え、互いに声を掛け合うことができる「地域の絆づくり」を目指して、社会福祉協議会とも連携して、ひとり暮らしや高齢者世帯の支援策に取り組んでまいりたいと考えています。



## Q3 結婚相談所の今後の運営方法と高成績を上げる方策について

### 結婚相談所

**問** 結婚相談所の3年間経過と結果をみると十分な成果が上がっていないと思う。大変デリケートな問題のため成果を求めめることは、無理かもしれない。内容等検討してみると、相談員の選出方法に問題があるように

も思える。相談員の構成や選出はどのような基準で決めているか。国は2020年までに希望出生率1.8、結婚希望者23才から39才既婚率80%に上げたいと目標を掲げている。国の目標に近づけるためには相当の努力が必要となるが、どのような対策をとるのか伺う。

### (青山総務課長)

**答** 八百津町の結婚相談所は、平成16年度までは社会福祉協議会で開所していましたが、その後相談所の開所はありません。国は、平成25年度の補正予算で地域少子化対策強化事業として、結婚・妊娠・出産・育児の一貫した「切れ目のない支援」を行うことを目的に、少子化対策の強化を行う地方公共団体を支援する事業を実施しました。また、岐阜県におきましても、「成婚500組推進プロジェクト」に取り組むため、県内の市町村の結婚相談所の会員情報をデータベース化してシステムを構築するよう、平成26年度において予算化がなされました。こうしたことを受け八百津町としても、少子化対策の一環として、結婚相談所を開設することを決定、平成26年8月からスタートをしました。現在3年目に入っています。

当初相談員については、「誰にお願いするか」「公募するか」など課内で色々と検討を行い、